
雨模様

廣木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨模様

【著者名】

廣木

N3256C

【あらすじ】

恋人と別れてもまだ忘れられずに相手のことを想う人の詩です。相手に対する想いが強すぎて溢れ出す想いを雨に例えました。未練がましいですが、悲しいほどに優しい気持ちが滲んでいます。

雨を待ち焦がれる僕と

雨を嫌う君と

誰の指図も受けない雨と

なんのヘンテツもないこの関係。

君は笑うかな？僕がこんなことを言い出したら・・・

君のことを想うとどんな晴れの日だって雲がやつてくる
ウキウキと怪しい雲が辺りを暗くする・・恵みの雨が降るんだ。
慌てて洗濯物を取り込むお母さん

「えー傘もつてないよ」と落胆しながらも盛り上がる教室
嫌々ながらもみんなウキウキしてるんだ

晴れてほのぼのした今日に飽き飽きしていたんだ
でも決して口には出さない
出してはいけない

これは暗黙のルールなのだから・・

僕は魔法使いではないマジシャンでも靈能者でもない

それでも不思議と雨は落ちてくる。

ねえ、笑うでしょ？

でもさ、僕はありがたく思つているんだ

雨は勿論だけれども君にだつて・・君は雨が嫌いなのにね。

君が嫌な顔をして落ちてくる雨を見つめる頃

僕は澄んだ表情で目を瞑る

こんな僕にだつて雨はちゃんと降つてくれる

優しく頬を撃つてくれるんだ

だから僕は素直に泣くことができる

だから僕は誰にも気づかれずに泣くことができるんだ

雨の恵みをかりて

僕はすべてを零とともに流すんだ

君の力をかりて

撃ちつけるすべての雨に負けないよう僕は起つて いるんだ

君の嫌いな雨だけど僕の好きな雨なんだ

雨とともに僕を忘れないで

雨とともに僕は生きたのだから

君がこの雨を睨む頃

僕は独り君を想うんだ

もつ笑つてくれないと知りながらも尚

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3256c/>

雨模様

2010年10月16日00時35分発行